

授業改善推進プラン < 数 学 科 >

(数 学) 科における令和3年度授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

定期的な小テストや単元ごとの確認テスト、週末課題などの定着により学力の基礎基本がはかれているように思える。

どの領域においても概ね目標値と同程度以上の正答率を残すことができた。しかし、1、2年では「関数」領域、3年では「証明」で目標値を下回り、課題が残った。

(数 学) 科における調査結果の分析

内容別結果の分析	<p>1 学年：11 内容の全てにおいて目標値を上回った。「少数・分数の計算」の目標値と校内正答率の差が一番少なかった。</p> <p>2 学年：8 内容のうち 7 内容で目標値を上回った。一方、「比例・反比例」では 1.8 ポイント下回った。</p> <p>3 学年：8 内容のうち 7 内容で目標値を上回った。一方、「データの分析」で 6 ポイント下回り課題が残った。</p>
観点別結果の分析	<p>1 学年：すべての観点で 5 ポイント以上目標値を上回った。</p> <p>2 学年：すべての観点で目標値を上回った。加えて、どの観点も前年度より上回った。</p> <p>3 学年：すべての観点で目標値を上回ったが、「数学的な見方や考え方」においては前年度より下回った。</p>

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 学年：「少数・分数の計算」に課題が見られるので、ステップ学習を活用し計算力を補う。また、「比と比例・反比例」において目標値を大きく上回っているので電子黒板を使い視覚に訴える授業を行うとともに、発展的な問題を用いさらなる向上を目指す。
- 2 学年：「関数」領域に課題が見られるので、電子黒板を使い視覚に訴える授業を行うとともに、ステップ学習を活用し補っていく。また、ステップ学習のチャレンジプリント等を活用し、より発展的な内容にも取り組んでいく。
- 3 学年：「資料の活用」領域に課題が見られるので、ステップ学習を活用し補っていくとともに、他のプリント教材も使い、反復練習をすることで証明に慣れさせる。

(数 学) 科の授業改善策

- 1, 2 学年：基礎基本の定着を基盤とし、苦手な領域に関しては、電子黒板を活用するなど視覚に訴える授業を展開する。また、ステップ学習のフォローアッププリントやたしかめプリントを活用することで、学習の定着を図る。
- 3 学年：基礎基本の定着を基盤とし、発展クラスを中心にステップ学習のチャレンジプリント等を活用し、より発展的な内容にも取り組むことで、更なる学力向上を目指していく。 苦手な領域に関しては他のプリント教材も使い、反復練習をする。